



## CFI ニュースレター C2023-08 「今は恵の時」

### [今月の聖書]

「さあ、かわいているものはみな水に來れ。金のないものも來れ。來て買ひ求めて食べよ。あなたがたは來て、金を出さずに、ただで、ぶどう酒と乳とを買ひ求めよ。なぜ、あなた方は、糧にもならぬもののために金を費やし、飽きることもできぬもののために勞するのか。私によく聞き、従え。そうすれば、良いものを食べることができ、最も豊かな食物で、自分を楽ませることができ。」(イザヤ 55: 1 .2)

「あなた方は、主にお会いすることのできるうちに、主をたずねよ。近くおられるうちに主を呼び求めよ。悪しきものは、その道を捨て、正しからぬ人はその思いを捨てて主に歸れ。そうすれば、主は彼に哀れみを施される。我々の神に歸れ、主は豊かに赦しを与えられる。」(イザヤ 55: 6,7)

「いとすぎは、いばらに代わって生え、ミルトスの木は、おどろに代わって生える。これは主の記念となり、また永久のしるしとなって、絶える事は無い。」(イザヤ 55: 13)

祭りの終わりの大事な日に、イエスは立って、叫んで言われた、

「誰でも、かわくものは、私のところに来て飲むが良い。私を信じるものは、聖書に書いてある通り、その腹から生ける水が川となって流れ出るであろう。」(ヨハネ 7: 37)

「なぜなら、彼らは神を知っていながら、神として崇めず、感謝もせず、かえってその思いは虚しくなり、その無知な心は暗くなったからである。」(ローマ 1: 21)

神はこう言われる、「私は、めぐみの時に、あなたの願いを聞き入れ、救いの日にあなたを助けた」。見よ、今は恵の時、見よ、今は救いの日である。(第二コリント 6: 2)

お元気でお過ごしでしょうか。今月は「今は恵みの時」と題してイザヤ書 55 章から、神の招きの言葉をお伝えいたします。イエス・キリストがヨハネによる福音書第 7 章で「誰でも渴くものは私のところに来て飲むが良い」と大胆に語られました。それはイザヤ書 55 章の引用でした。神は今日もあなたに呼びかけておられます。「渴く」とは、単に暑さの中で水を求めることではありません。心の渇きであり、さらに深い魂の渇きであります。人間は衣食住だけでは満足することができません。それぞれに必要なものがあるでしょう。学歴や地位や名誉や財産も大切でしょう。自分の才能の自己実現を求める人もあるでしょう。また友情も必要でしょう。しかし、何よりも「愛」なくして心の満足はありません。それも人間的な愛情を独占的に求めたとしても、真に魂を潤すものとはならないのです。そこに「徒勞」があります。

「罪」の原意は「的外れ」という意味です。神の愛とみ言葉の導きの中を歩んでいないと、人生は徒勞である場合があります。時間、才能、体力、命そのものを無駄にしてしまうのです。「あなた方は主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねよ。」(イザヤ 55: 6) まさにこのメッセージを聞いてくださっている今こそ「恵みの時」であります。

この問題は、すでにクリスチャンとなっても、惰性的に生活し、悔い改める心がなく、真剣に聖書の言葉に取り組まず、心から神に従う日々でなければ、やはり「徒勞」なのです。

まさに酷暑の夏を迎えています、このような時こそ、人生の最も大事な「神に立ち歸る問題」を真剣に考えるべき時ではないでしょうか。

今はイエス・キリストの十字架による赦しの道が開かれています。あなたの心を翻すならば、今まで経験したことのない豊かな感謝に満ちた日々を見いだすことができるでしょう。心から神の恵みが注がれますようにお祈りいたします。

### (お知らせ)

\*9月18日(月)大阪クリスチャンセンターにおける「喜びの歌を共に大阪集会」のご案内を申し上げます。参加可能な方はぜひ事務局に電話、ファックス、メールなどで登録をお願いいたします。

ぜひ共に集まり高らかに賛美いたしましょう。

## ◆◆◆ C F I 会員投稿原稿 第 90 ◆◆◆

### 「賛美の力」

森眞弓(神奈川県)

第二回喜びの歌を共に 大阪での集いのためにお祈りしております。

「私たちは見るところによってではなく、信仰によって歩んでいます。」(第二コリント 5: 7)

堅固な城壁を破壊し、山のような困難を解消する力を持った天の調べがある。

パウロとシラスの歌は、ピリピの牢獄の足かせを解いた。ヨシャパテの歌う者たちの歌は、アモン人の軍隊を敗走させた。信仰の歌は、私たちの敵を追い散らし、意気消沈している心を引き上げて力づけ、勝利に至らせるのである。

愛する友よ、今も私たちにとって暗黒の時であるだろうか。不毛の陰鬱な冬であるだろうか。私たちはそれが信仰を教えるために、神が選んで備えてくださった時であることを知ろうではないか。そしてまた、彼は表面のすぐ下に、尊い、言葉に絶する、思ってもみない果実の収穫を隠しておられることを忘れないようにしようではないか。常に冬ではない。常に夜でもない。やがて朝がやってきて、また春がその緑のマントを不毛の地に広げる時、私たちが試練の時に父なる神を失望させなかったこと。信仰が輝かしい結実をすぐに要求し、遠くから見ていたことを喜ぶのである。

主よ私が見ることのできない時に信じる事が出来るように。そして、私の試練から主をさらに信頼することを学ぶことができるように助けてください。

「天国の日々」9月18日 AB シンプソン著 松代幸太郎訳



### 「みことばに励まされて」

武田シマ子(栃木県)

「潤った園のように」と題してイザヤ書 59 章に書かれている満ち足りた人生の姿を学ばせていただきました。

- ①理想的な人生とは神に導かれること。
- ②祈りの結果、必要なものが全て与えられること。
- ③神の恵みによって、肉体的にも精神的にも強くされること。
- ④常に信仰による美しさと魅力を持って輝くこと。
- ⑤砂漠のような現代社会にあって、いつも水の絶えない泉のように、真理を宣べ伝えるものとなること。

聖書は、私たちが御言葉に従って「与える人生、愛に満ちた人生」を過ごすならば、これらの事は、イエス・キリストによって、皆可能であると宣言しています。

「主は、常にあなたを導き、良きものをもってあなたの願いを満ちたらせ、あなたの骨を強くされる。あなたは潤った園のように、水の絶えない泉のようになる。」(イザヤ 58: 11)

「神のなされる事は皆、その時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を思う思いを続けられた。それでもなお、人は神のなされる業を始めから終わりまで見極めることができない。」(伝道の書 3: 1、11)

たくさんのお話を細やかに学ばせていただいております。学ぶことの楽しさを味わう今日この頃です。

主が共にいてくださり、試練を乗り越える時、神の愛を実感します。その時、新しい歌が心に湧き出てきます。感謝と喜びの賛美を捧げることが出来ますように常に願っております。

9月18日大阪の賛美の集いのためにお祈りしています。